

## 市川市「稲越町」の町名の呼び方とその変遷についての仮説と論点整理

文責：千葉商科大学政策情報学部  
教授 朽木 量

## &lt;前提となる調査状況&gt;

- 1 村名が記されたもつとも古い資料である、寛文期に成立とされる「下総国絵図」の表記には「稲小路」とあり、「いなこうじ」と読むのではないかと推察される。このことから見て、「いなこうじ」は「いなごし」よりは「いなこし」の方に音が近いため、もともと（近世期）は「いなこし」と濁らずに読んでいたと考えられる（「元禄郷帳」など元禄期以降は「稲越」〔ふり仮名等なし〕との表記のため、読み方は不明）。
- 2 現在は「いなごしまち」と濁って読むことも多く、小学校も「稲越（いなごし）小学校」と濁って呼んでいる。
- 3 「いなこし」→「いなごし」と濁るようになったのは、最近（戦後？）のことらしい（時期不明）。戦前の吉田東伍『大日本地名辞書』には記載なし。戦後編纂された最も権威ある地名辞書である平凡社版『日本歴史地名大系』や『角川日本地名大辞典』などはいずれも「いなこし」表記となっている。
- 4 「いなごし」表記があるのは『全国地名読みがな辞典』『新全国地名読みがな辞典』『全日本地名辞典』の3つの類書と、金井弘夫『新日本地名索引』である。3つの類書は、地名の由来等の考察もなく、ただ地名表記を列挙したリストのようなものであり、金井の本は、専門が植物地理学であり、植物標本の採取地名を調べるために作成したものであり、地名の読みは考証しておらず独断で判断した旨が冒頭に明記されている。
- 5 「いなこし」→「いなごし」の変化の理由に関する口承伝承等の定説もない。

そこで、以下の仮説を立てるに至った。

## &lt;仮説&gt;

上の1にあるように本来（近世期まで）は連濁のルールに従わず「いなこし」と読んでいたが、近代の住居表示になって「稲越町」となり、「まち」がついた。「町」が付いたことで、「いなこしまち」と濁らず読むのが言いにくいいため、連濁のルールが適用され「いなごしまち」と言うようになった。

### <当該仮説に関する音声学・音韻論的見地からのコメント>

和洋女子大学非常勤講師 本間美奈子先生

「いなごし」の読みは「連濁」現象とみられます。「連濁」とは、複合語を構成する際に後部要素の語頭が濁音になる現象です。たとえば「青い空」と、単なる「青（あお）」と「空（そら）」の羅列とは区別する必要があります。そこで、複合語の場合は後部要素「そら」を濁音化させ「あおぞら」として、語の羅列とは区別しています。「稲（いね → いな）」＋「越（こし）」では、後部要素の語頭音が濁音化して、「いなごし」になります。

しかし、歴史的な変遷があるように感じます。昨日「稲越」の読みについてお問合せをいただいてから古地図の表記を探してみましたが、残念ながら読みが記載されているものには至ることができませんでした。

寛文国絵図は未見ですが、「稲小路」は「いなこし」と読むのでしょうか。当時の稲越村が小路に位置していたのか、地理的な位置関係が気になっています。もし、読みが「稲（いな）＋小路（こうじ）」であれば、後部要素に濁音「じ」があるため「こ」は濁音化せず「いなこうじ」になります。朽木先生のご調査では元禄以降「稲越」に漢字表記が変わっているとのことですので、当時の「稲小路」と「稲越」の音は近かったのかもしれない。

時間を経て複合語「いなこし」内部の意味構造が意識されなくなり、「稲越町」になった結果、通常の複合語と同じ音韻規則の適応を受けるようになり、「いなごし」となったと推測いたします。「大阪」が「おおざか → おおさか」と変化したように、時代によって連濁の有無が変わることがあるそうです。

### <住居表示上の名称選定にかかる論点整理>

- 1 本来の読みは「いなこし」であり、その名称にこだわりを持つ住民もいる。
- 2 住居表示の変更後は町が取れるため、名称はどちらでも良い。
- 3 小学校など、「いなごし」になっているものもある。
- 4 この審議会で「いなこし」を「いなごし」にするのであれば、相応の理由が必要であり、きちんと議事録に残して、後世に伝える必要があると考えられる。

ある。  
 [中世]井土山村 南北朝期から見える村名。下総国千代田のうち。建武年間と推定される年月日未詳の某書状に「井土山事をもって雖可申入候、物急候間、不申入候条、恐存候」とある(金沢文庫古文書)。戦国期、明弘3年7月14日付香取修理亮藤原貞秀寄進状によれば、「千田庄 イト山村 田巻段」が香取の新福寺観音に寄進されている(新福寺文書/香取文書纂)。なお、金沢文庫所蔵未詳聖教の識語に「元弘三年九月五日、土一為井土山入道百日」とあるが(金沢文庫古文書12)、この井土山入道は当地の在地武士で、北条氏滅亡時に鎌倉で討死したものとと思われる。  
 [近世]井土山村 江戸期〜明治10年の村名。下総国香取郡のうち。「各村級分」では幕府、旗本頼名氏・松平氏・保田氏の相給、「旧高旧領」では旗本大河内氏・源名氏・松平氏・吉田氏・篠山氏の相給でほかに与力縁知・日枝大神祭典免除除地が見える。村高は、「元禄郷帳」256石余、「天保郷帳」259石余、「旧高旧領」260石余。神社は日枝大神・水神宮、寺院は真言宗蓮福寺、明治初年東漸寺を合併した大脚堂がある。また、大師堂には芭蕉の句碑と墓がある。弘化2年の家数40(國東取締出役帳/香取郡誌)。明治8年千葉県に所属。明治10年久賀村の一部となる。  
 [近代]井土山 明治22年〜現在の大字名。昭和6年までは久賀を冠称。はじめ久賀村、昭和29年からは多古町の大字。もとは久賀村の一部。農産の盛んな地域。

いな 稲<鎮山市>  
 平久里川支流滝川流域の平地と台地上に位置する。戦国期の稲村城跡がある。  
 [中世]稲村 戦国期に見える村名。安房国山下郡那のうちの。安房国2年秋に総領地が実施されたが、その直後の慶長2年11月20日付里見義康充行状により、「房州下郡稲村之内戸貳拾石」が石井殿守に充行われている(石井文書/県史料諸家)。当地には天文3年まで里見氏が拠った稲村城があった。里見義通は稲村城に本拠を構えていたが、永正15年に病没であったため、竹若丸が成人するまで里見氏の家督は一時義通の弟実義に譲られたこととなり、竹若丸は宮本城に移り、稲村城には実義が入った。しかし、義豊成人後も実義は家督を返さなかったで、天文2年7月、義豊は稲村城を攻め実義を殺害し、城を奪還した。この時、実義は逃れて上総国百石城(現富津市竹岡)に拠った。天文3年4月、義豊は義豊攻撃のため安房に侵攻、同軍は本陣で激戦をくりひらけたが、義豊は敗れて稲村城に逃げ帰り、追撃してきた義豊軍と戦い討死した。この戦いに勝利をおさめた義豊は上総国蒲田城(のちの畷里里城)に本拠を置き、稲村城は以後廃城となった(南総の豪族)。  
 [近世]稲村 江戸期〜明治22年の村名。安房国山下郡那のち安房郡のうち。はじめ里見氏領、元和元年幕府領のち「正保高帳」では北条藩領、元陽郡郷考)では忍藩領、「旧高旧領」では前橋藩領。村高は、慶長15年「里見家分限帳」460石余、「元禄郷帳」277石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに276石余。「正保高帳」では村高274石余のうち、田180石余・畑83石

余。正徳元年北条藩領の当村はか26か村は百姓一揆万石騒動を起こした。天保年間頃の家数42(石井家文書/県史料諸家)。鎮守は貴船神社、寺院は臨濟宗玉竜院・浄土宗稲村院。幕末玉竜院の住職鎌藤堂が寺子屋を開いていた。明治6年千葉県に所属。同7年加戸村を合併。明治22年館野村の大字となる。  
 [近代]稲 明治22年〜現在の大字名。はじめ館野村、昭和29年からは館山市の大字。明治24年の戸数55・人口319、慶27、昭和35年の世帯数78・人口398。同54年の農家戸数は58(館山市の農業)。

いなおかちよう 稲丘町<千葉市>  
 [近代]昭和41年〜現在の千葉市の町名。もとは千葉市稲毛町1丁目<千葉市>  
 いなげ 稲毛<千葉市>  
 下総台地西端、袖ヶ浦沿岸の低平地に位置する。地名の由来は、黒砂に小字「いなげだえ」があり、古代の稲置の所在との関係が推定される(千葉市の町名考)。「国府台戦記」には、天文7年の第1次国府台合戦ののち、小田原北条氏に討たれた小弓方足利義明息男の乳母れんせいが、若君の墓参りに赴く途次の描写として、「小弓をばまだ夜ふかきに旅立ちて……三川を越えて過ぎ行けば、これやいなげのまつ山や、その松風もみにまじりて」とある(続群22)。

[近世]稲毛村 江戸期〜明治22年の村名。下総国千葉郡のうち。天正17年地頭大野勘解由左衛門が浅間神社社屋30石を寄進。また、寛文5年旗本朝倉氏と石河氏が入会松林を寄進している(千葉市誌)。「各村級分」では幕府、旗本石河氏・朝倉氏の相給、「旧高旧領」では幕府、旗本朝倉氏の相給、ほかに浅間神社除地。村高は、慶長19年「御成街道作帳」420石(旧佐野家文書/千葉市史料編2)。「元禄郷帳」458石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに527石余。検見川宿の定助郷村。天保15年明細書上帳によれば、家数186、うち大工7・屋根屋15・酒造1、村内入会株六川野20町歩、ほかに13か村入会六方野へ1里余、津出しは隣村検見川津、五穀のほかは薩摩芋・瓜・西瓜を作し、農間に蜀・蛤をとって売っている。浦運上永納。享和2年〜文化3年稲村三伯が当村に飯屋。神社は浅間神社・水神宮など、寺院は眞言宗南蔵院・千手寺。明治6年千葉県に所属。同年千手寺業師堂に本郷学校が開設。同18年稲毛小学校と改称。明治15年中野原陸軍對抗演習御統監の行幸に際し、稲毛御野立所を設置。明治22年検見川村の大字となる。  
 [近代]稲毛 明治22年〜昭和13年の大字名。はじめ検見川村、明治24年検見川町、昭和12年からは千葉市の大字。明治24年の戸数310・人口2,057、厩33、船45。同30年稲毛海水浴場が開設され、同32年総武鉄道(現国鉄総武本線)稲毛駅開業。同35年郵便局開設。大正6年台風による大津波で国道が半壊し、伊藤飛行機研究所も津沼沼へ移転。同10年京成稲毛駅開業。同14年水田耕地整理実施。昭和12年戦時航空用アルコール工場開設。昭和13年稲毛町1〜5丁目となる。  
 [近代]稲毛町 昭和13年〜現在の千葉市の町名。はじめ1〜5丁目、昭和41年1・2・4・5丁目、同43年からは2・4・5丁目がある。一部が、昭和33・40年稲毛台町、同40年稲毛東1〜4丁目・小仲台1〜2丁目、同41年稲丘町・稲毛1〜3丁目・稲毛東5〜6

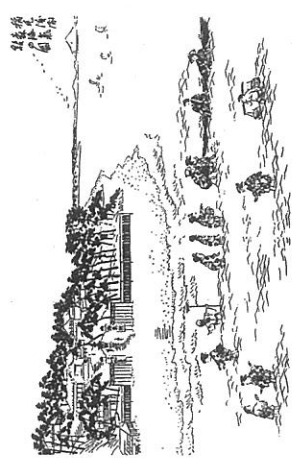
いなげいかいがん 稲毛海岸<千葉市>  
 [近代]昭和39年〜現在の千葉市の町名。東京湾岸公用水面埋立地に起立。昭和43年稲毛町1・5丁目を編入して1〜5丁目を設定。同47年一部が高洲1・4丁目となる。海浜住宅地で昭和41年稲毛第二小学校、同51年稲毛小学校開設。世帯数・人口は、昭和41年11・25、同42年1,010・3,161。  
 いなげいちよう 稲毛台町<千葉市>  
 [近代]昭和38年〜現在の千葉市の町名。もとは千葉市稲毛町2丁目の一部。昭和34年の世帯数321・人口1,188。同40年稲毛町2丁目の一部を編入し再編成。

いなげひがし 稲毛東<千葉市>  
 [近代]昭和40年〜現在の千葉市の町名。はじめ1〜4丁目、昭和41年からは1〜6丁目がある。もとは千葉市黒砂町・稲毛町2・4丁目の各一部。4丁目の通産省アルコール工場は、昭和12年戦時航空用アルコール供給のために建設された。同40年の世帯数1,618・人口5,649。  
 [近世]江戸期〜明治7年の村名。上総国天羽郡のうち。湊川支流志駒川中流域に位置する。佐貫藩領。村高は、文禄3年「石高覚帳」52石、「元禄郷帳」「天保郷帳」「旧高旧領」ともに54石余。「上総国村高帳」では家数11。寛政5年の書上帳によれば、人数52、農間余業は男女とも山嶽であった(祖山家文書/富津市史料集1)。文化8年の松平定信による竹ヶ岡村御台場・陣屋普請に際して、当村も人足割当てがあった(黒坂日記/富津市史料集2)。慶応元年当村など7か村と志駒川の間に秣秣争論があった(石井家文書/富津市史料集1)。同2年当村など志駒川の間で秣秣争論について争論が起こった(小沢家文書/同前)。明治6年千葉県に所属。明治7年志駒村の一部となる。

いなこし 稲越<市川市>  
 真間川の支流国分川・春木川が分流する東に位置。  
 [近世]稲越村 江戸期〜明治22年の村名。下総国葛飾郡のうち。幕府領。村高は、「元禄郷帳」283石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに254石余。松戸宿への定期郵便を国分谷村と隔年で勤めた。寺院は日蓮宗安徳寺。神社は同寺抱の磯島神社。明治6年千葉県に所属。同11年東葛飾郡に編入。明治22年五常村の大字となる。  
 [近代]稲越 明治22年〜昭和26年の大字名。はじめ五常村、明治23年国分村、昭和9年からは市川市の大字。明治24年の戸数37・人口237、厩13。東部の台地には明治末期〜大正初期頃ナシ栽培が広まった。昭和25年の世帯数54・人口3,370。昭和26年稲越町となる。  
 [近代]稲越町 昭和26年〜現在の市川市の町名。昭和28年の世帯数51・人口361。同39年国分高校開校。生徒の通学の便を図って京成バスが市川駅間に路線を設置。同56年稲越小学校開校。  
 いなたきむら 稲滝村<君津市>  
 [近世]江戸期〜明治7年の村名。上総国望陀が郡のうち。小龍川上流右岸に位置する。「上総国村高帳」では川越藩領、「旧高旧領」では前橋藩領。村高は、「元禄郷帳」32石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに47石余。「上総国村高帳」では家数6。安政2年完成の大戸用水工事に関係した(上総郡誌)。入会地は西野村御林で18か村の入会(上総村郷土史)。明治6年千葉県に所属。神社は稲荷神社。明治7年広岡村の一部となる。  
 [近代]平安期に見えぬ郷名。「和名抄」上総国海上郡八郷の1つ。高山寺本の訓は「伊奈尔波」。東急本は「伊奈无波」。養老川上流東部、現在の市原市地和田・平蔵付近の平蔵川流域に比定する説と(地名辞書)、養老川下流西側、現在の市原市大字飯沼付近とする説(地理志料)がある。

丁目・黒砂4丁目、同43年稲毛海岸1〜5丁目となり。昭和21年丸山製作所、同24年専売公社葉たばこ再乾燥工場、同26年稲毛第二小学校(現稲丘小学校)、同41年稲毛中学校開設。昭和36年海岸埋立てが開始され、同39年稲毛海岸設定。世帯数・人口は、昭和13年704・3,759、同30年2,362・1万1,165。  
 [近代]稲毛 昭和41年〜現在の千葉市の町名。1〜3丁目がある。もとは千葉市稲毛町3丁目全域と稲毛町1丁目の一部。

いなげいいなげ  
 丁目・黒砂4丁目、同43年稲毛海岸1〜5丁目となり。昭和21年丸山製作所、同24年専売公社葉たばこ再乾燥工場、同26年稲毛第二小学校(現稲丘小学校)、同41年稲毛中学校開設。昭和36年海岸埋立てが開始され、同39年稲毛海岸設定。世帯数・人口は、昭和13年704・3,759、同30年2,362・1万1,165。  
 [近代]稲毛 昭和41年〜現在の千葉市の町名。1〜3丁目がある。もとは千葉市稲毛町3丁目全域と稲毛町1丁目の一部。



稲毛海岸の図(明治20年頃)

いなげいいなげ  
 丁目・黒砂4丁目、同43年稲毛海岸1〜5丁目となり。昭和21年丸山製作所、同24年専売公社葉たばこ再乾燥工場、同26年稲毛第二小学校(現稲丘小学校)、同41年稲毛中学校開設。昭和36年海岸埋立てが開始され、同39年稲毛海岸設定。世帯数・人口は、昭和13年704・3,759、同30年2,362・1万1,165。  
 [近代]稲毛 昭和41年〜現在の千葉市の町名。1〜3丁目がある。もとは千葉市稲毛町3丁目全域と稲毛町1丁目の一部。

いなげいいなげ  
 丁目・黒砂4丁目、同43年稲毛海岸1〜5丁目となり。昭和21年丸山製作所、同24年専売公社葉たばこ再乾燥工場、同26年稲毛第二小学校(現稲丘小学校)、同41年稲毛中学校開設。昭和36年海岸埋立てが開始され、同39年稲毛海岸設定。世帯数・人口は、昭和13年704・3,759、同30年2,362・1万1,165。  
 [近代]稲毛 昭和41年〜現在の千葉市の町名。1〜3丁目がある。もとは千葉市稲毛町3丁目全域と稲毛町1丁目の一部。

いなげいいなげ  
 丁目・黒砂4丁目、同43年稲毛海岸1〜5丁目となり。昭和21年丸山製作所、同24年専売公社葉たばこ再乾燥工場、同26年稲毛第二小学校(現稲丘小学校)、同41年稲毛中学校開設。昭和36年海岸埋立てが開始され、同39年稲毛海岸設定。世帯数・人口は、昭和13年704・3,759、同30年2,362・1万1,165。  
 [近代]稲毛 昭和41年〜現在の千葉市の町名。1〜3丁目がある。もとは千葉市稲毛町3丁目全域と稲毛町1丁目の一部。

いなげいいなげ  
 丁目・黒砂4丁目、同43年稲毛海岸1〜5丁目となり。昭和21年丸山製作所、同24年専売公社葉たばこ再乾燥工場、同26年稲毛第二小学校(現稲丘小学校)、同41年稲毛中学校開設。昭和36年海岸埋立てが開始され、同39年稲毛海岸設定。世帯数・人口は、昭和13年704・3,759、同30年2,362・1万1,165。  
 [近代]稲毛 昭和41年〜現在の千葉市の町名。1〜3丁目がある。もとは千葉市稲毛町3丁目全域と稲毛町1丁目の一部。

諏訪田」とみえ、軍勢・甲乙人の乱妨・狼藉を停止して...

天正一九年六所大明神は村内で一〇石の社領朱印地を...

須和田遺跡 市川市須和田二丁目 国分台と真間山の台地から東西に延びる長さ約六〇〇...

向台貝塚 市川市會谷三丁目 国分川左岸の下総台地に位置する縄文時代前期初頭から...

會谷貝塚 市川市會谷二丁目 向台貝塚の北東、国分川下流左岸の下総台地上にあり、...

稲越村 市川市稲越町 国分川の谷津を挟んで国分村の北東に位置し、集落は...

會谷村 市川市會谷一丁目・宮久保一丁目 稲越村の南に位置する。台地上に集落や畑地があり、...

貝塚村 市川市下貝塚一丁目・南大野一丁目 會谷村の東に位置し、集落は台地下部に形成されている。...

法華経寺日祐に譲与して(元徳三年九月四日)千葉胤貞...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

法華経寺日祐に譲与して(元徳三年九月四日)千葉胤貞...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

寛文期(二六六一七三三)と推定される国絵図に村名が...

